

事例6

< 事例概要 >

- ・ 60 歳代の患者、PS※ 2 ～ 3。死亡時画像診断（Ai） 有、解剖有。
- ・ 主診療科：消化器内科、肝生検施行診療科：放射線科。
- ・ 血小板4.2 万/ μ L、PT 時間 16 秒、PT 活性54%、FDP 20 μ g/mL、Fib 58 mg/dL。
- ・ 肝機能障害の診断目的で、経静脈的肝生検が実施された。
- ・ 肝生検終了時、血圧 50 mmHg 台となり、昇圧薬が投与された。造影CT 撮影中、心肺停止した。腹腔内出血が判明し、動脈塞栓術が施行されたが、肝生検終了から約 22 時間後に死亡した。
- ・ 生検組織診断の結果は、急性肝炎（広汎壊死）であった。

※ PS（performance status）： ECOG（Eastern Cooperative Oncology Group）が定めた全身状態の指標で、患者の日常生活の制限の程度を示す